

令和6年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学校段階に応じた目標達成に向け、発信する力の強化のために指導力向上を図る
(小学校：英語に慣れ親しみ、英語で伝えたいという意欲の育成)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①言語活動の理解と実施促進
(R4:93.7%⇒R5:94.0%)
- ②CAN-DOリストの活用促進
設定 (R4:72.8%⇒R5:79.3%)
公表 (R4:43.1%⇒R5:62.9%)
把握 (R4:68.4%⇒R5:76.4%)
- ③1人1台端末の活用促進
(R4:96.8%⇒R5:100%)

未だ改善が必要な点

- ①児童の英語で発信する力を高める言語活動を通して指導することの充実
- ②言語活動の充実のための学習者用デジタル教科書を含むICT活用
- ③小中連携による指導法の継続
小中連携 (カリキュラム)
(R4:13.5%⇒R5:20.0%)
- ④R5全国学力・学習状況調査結果より、英語学習への意欲に課題がみられる。

2. 要因分析

【改善が進んだ要因】

- ①②③小中学校等英語指導力養成講座において、学習指導要領で求められる指導について有識者から直接説明を受け、参加者同士で協議を行うことで理解が進んだ
- ①②③教育課程研究協議会の代表による発表から指導の実際に触れ、協議を通して使いながら学ぶことの理解が進んだ。

【改善が必要な要因】

- ①④児童の興味・関心を引き出し、言語活動を通して発信する力を高める単元構想が不十分
- ②学習者用デジタル教科書の実践的な活用に関する研修機会の不足
- ③カリキュラム連携等の具体的な連携方法や中学校教員の小学校外国語への理解不足
- ④児童が実際に英語を用いてコミュニケーションする場の不足

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③④

小中学校等英語指導力養成講座を実施

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践を学ぶ。
- ・小学校での実践に触れ、小中連携の視点により、指導法の継続から指導力向上を図る。

①②③④英語指導方法改善事業の実施

- ・学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導方法の開発・実践
- ・小中連携の視点により、発信する力を高める系統的な指導力を研究し、その実践を県内に周知する。

①②③小学校英語専科教員研修会の実施

①②④教育課程実践事例の追加

- ②学習者用デジタル教科書活用研修会の実施
- ③④年次研修において他校種の実践を紹介し、校種間連携に関するテーマに情報交換や協議する小中高の希望者による研修を実施する。

【小学校英語専科指導に係る加配定数の活用に係る事項】 (一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組)

- 公立学校教員採用候補者選考試験において、下記の資格・実績がある者は10点の加点
- ・英語の中学校教諭又は高校教諭の普通免許状
- ・ALTの実務経験が2年以上
- ・CEFR B2相当取得者

令和6年度 埼玉県 英語教育改善プラン

学校段階に応じた目標達成に向け、発信する力の強化のために指導力向上を図る
（中学校：自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成）

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：48.1%⇒R6：52%）

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①言語活動の理解と実施促進
（R4:76.9%⇒R5:81.6%）
- ②CAN-DOリストの活用促進
設定（R4:100%⇒R5:100%）
公表（R4:76.6%⇒R5:87.9%）
把握（R4:96.1%⇒R5:94.6%）
- ③小中連携の実施促進
情報交換
（R4:56.1%⇒R5:76.9%）
交流（R4:36.9%⇒R5:51.3%）

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力向上
（R4:50.1%⇒R5:48.1%）
- ②教員の英語力が改善
（R4:36.0%⇒R5:41.1%）
- ③言語活動の充実のための学習者
用デジタル教科書を含むICT活用
- ④小中連携、中高連携による指導
法の継続
小中連携（カリキュラム）
（R4:13.5%⇒R5:20.0%）
中高連携
（R4:13.5%⇒R5:11.0%）
- ⑤R5全国学力・学習状況調査結
果より、聞くこと、話すこと、書くことや
英語学習への意欲に課題がみられる。

2. 要因分析

【改善が進んだ要因】

- ①小中学校等英語指導力養成
講座において、学習指導要領で
求められる指導について有識者
から直接説明を受け、参加者同
士で協議を行うことで理解が進ん
だと考えられる。
- ②③教育課程研究協議会での
行政説明がそれぞれの先生方に
確実に伝わったと考えられる。

【改善が必要な要因】

- ①⑤言語活動を通して英語力
を総合的に高める授業改善が不
十分
- ①⑤生徒が実際に英語を用い
てコミュニケーションする場の不足
- ②教員が英語力を高める機会
の不足
- ③学習者用デジタル教科書の
実践的な活用に関する研修機
会の不足
- ④⑤カリキュラム連携等の具体
的な連携方法や小学校外国語
への理解不足

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①③④⑤

小中学校英語指導力養成講座の実施

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践を学ぶ。
- ・小学校での実践に触れ、小中連携の視点により、
指導法の継続から指導力向上を図る。
- ・英語力の高い教員の授業の効果を周知する。

英語指導方法改善事業の実施

- ・学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指
導方法の開発・実践する。
- ・小中連携の視点により、発信する力を高める系統
的な指導力を研究し、その実践を県内に周知する。
- ②ICTを活用した英語指導力養成講座（教師の
英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン
研修）の効果測定として、参加者に英検IBAの受
験を課す。これにより自分の英語力の立ち位置を
認識し、準備の見通しをもって民間英語資格試験
への受験を促す。

③学習者用デジタル教科書活用研修会の実施

- ④年次研修において他校種の実践を紹介し、校種
間連携に関するテーマに情報交換や協議する小中
高の希望者による研修を実施する。

令和6年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学習指導要領の円滑な実施に向けて、4技能のバランスが取れた教員の英語指導力養成と生徒の英語力向上を図る

○CEFR A2相当以上、CEFR B1相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 47.3%、B1以上 20.7% ⇒ R6 : A2以上 50%、 B1以上 25%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加
(R4:42.6% ⇒ R5:47.3%)
- ② CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善
(R4:19.9% ⇒ R5:20.7%)
- ③CEFR B2レベル以上の英語力を有する英語担当教師の割合が増加
(R4:60.1% ⇒ R5:76.8%)

未だ改善が必要な点

- ① 「生徒の英語による言語活動」の割合が引続き改善の余地がある。
(R4:40.0% ⇒ R5:35.3%)
- ② 「英語担当教師の英語使用状況」の割合が昨年より減少した。
(R4:32.8% ⇒ R5:24.4%)

2. 要因分析

- ①②・教育課程連絡協議会における調査結果のフィードバックによる現状や課題の共有や、生徒の英語力の見取り方に関する情報提供をすることができた
 - ・授業研究支援訪問を行い、指導主事が授業を観察し、指導・助言を行った
- ③資格取得者が増加している。
(R4:667人 ⇒ R5:872人)
 - ・特別受験制度の利用促進がされた可能性もある。

- ①②
「英語担当教師の英語使用状況」の割合が低いことから、生徒の英語力向上に必要な「生徒の英語による言語活動」の割合が低い。

3. 目標を達成するための施策・事業

教員の英語力、指導力向上と生徒の英語力向上は密接な関係があるため、以下の取組を行っていく

- ①②③ ①②
 - ・教育課程連絡協議会や校長会等の機会を捉えた調査結果のフィードバック（埼玉県の英語教育の現状や課題の共有、適切な見取り方の情報提供）
 - ・「授業研究支援訪問」などの活用による、指導主事による各校における授業改善支援
 - ・2年次英語教員フォローアップ研修による、英語による指導法・ディベート指導に関するワークショップ実施と指導法の共有
 - ・年次研修等の内容のさらなる充実
- ③ ①②
 - ・中高合同の外部英語検定試験を活用した教員研修の実施と特別受験制度の周知
 - ・初任者のTOEIC受験

埼玉県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47.3	50		52		54		56		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	20.7	25		25		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	65	35.3	50		55		60		65		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	21.6	35		40		45		50		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	86.1	100		100		100		100	
		公表(%)	100	71.5	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	55.7	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75	76.8	80		83		85		88		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	65	24.4	40		45		50		55			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	48.1	52		55		58		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	81.6	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	95.8	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	87.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	94.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	41.1	43		45		47		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	94.5	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	79.3	85		90		100		100
		公表(%)	100	62.9	70		80		90		100
		達成状況の把握(%)	100	76.4	80		85		90		100